

情報連絡一覧票（令和4年6月分）

| 集計上の分類業種    | 具体的な業種<br>(産業分類細分類相当) | 組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）   |
|-------------|-----------------------|---|
| 製<br>造<br>業 | パン                    | 売上高状況は組合員により増加・減少・不変があり平均すると不変あたりか。販売価格アップが成されているものの早期の夏到来で売上減少傾向がみられる。原材料、ガソリン、光熱費アップにより収益は圧迫されている傾向が強い。更なる小麦等の原材料アップが予測されており、全組合の景況感は悪化している。（最低賃金アップが行われると経営への悪影響大）   |
|             | 酒造                    | 令和4年度6月の清酒課税移出数量の特定名称酒は対前年比124.62%と上回った。内訳は吟醸酒128.17%、純米吟醸111.11%、純米酒129.41%、本醸酒91.87%となった。特定名称酒以外の普通酒は対前年比126.74%と上回り、合計で対前年比131.95%と前年を上回る結果となった。   |
|             | 食料品<br>ひもの            | 箱根等観光地での人出は回復傾向との報道がされたが土産品干物の売上増には結びついていない。また、中元期を迎え「中元商戦に回復傾向が見られる」との報道が見られるが当業界はコロナ前の水準に至らないのが実態である。一方塩等原材料や包装資材等の価格が軒並み上昇しており経営を圧迫しつつある。中でも電気は料金値上げに加え電力供給量不足も言われており安定経営の点で今後が心配である。  |
|             | 製麺                    | 近夏電力が逼迫すると分かっている、しかも国民に向けてアナウンスしているにも関わらず節電要請の他にもしない、後に言われるであろう「悪夢の岸田政権」。実は余裕があるのか、または本当に愚かなのか国民には分かりかねますが一つだけはわかるのが国指導で原発を夏の間だけでも稼働させれば大抵のことは解決すると思う。私も50年以上生きてきて思うことは、まだ子供のころは日本は貧しかったし、バブルを超えて成熟した社会になってきた実感があって東日本大震災で電力の大切さを知って、それから10年以上たって今更電気がないのでと取捨政策が節電要請だけの世の中になるとは夢にも思わなかった。こんな体たらくなのに世界の舞台でどの面下げて岸田に投資しろと言えた物だと思う。もしギャグで言ったのならR-1に出て言ってもらったら少しは笑えたかもしれない。こんな政権に変わる政党がないのは国民にとって一番の不幸だと思う。 |
| 木材・木製品      | 家具                    | ウッドショックに始まった原材料値上げが激しい。木材以外にも革、ウレタン、塗料、接着剤に至るまで値上げ。ロシアのウクライナ侵攻、上海都市封鎖が追い打ちとなっている。対抗策として企業は販売価格の値上げに踏み切らざるをえないが、多くの中小企業は、苦慮している。中期的対策は国産材を見直し活用する製品を開発し、付加価値の高い新商品で対応など検討中。テレワーク家具、アウトドア関連、SDGsを打ち出す新製品など。事業復活支援金へは殆どの企業が応募している。家賃支援給付金の追加予算を希望している。事業再構築補助金第5回に応募した企業は、全国各地に多い。   |
| 印刷          | 製本                    | 昨年と変わらず需要は低迷している。各種イベントが再開し始めているが月末に向けて新型コロナの感染者数が増加していることで影響が懸念される。材料費が値上げを繰り返す中、価格に転嫁することが難しく、売上低迷に追い打ちをかけて経営を圧迫している。業界全体として正当な値上げを行えるようお客さまにご理解いただく必要にせまられている。   |
| 化学・ゴム       | 石油製品                  | ある組合員に今月の景況を伺ったところ、「輸入原料の建値の上昇は落ち着く気配がなく、海上輸送費は2年前の2倍以上となり、為替の大幅な円安も加わり、販売価格への転嫁が追い付けない状況である。当面はこの状況で推移するものと思われる。」と話していた。   |
| 窯業・土石製品     | 碎石                    | 前月同様に生コンクリート協同組合の生コンの出荷が更に落ち込んだため、骨材の出荷も落ち込んだ。  |
| 鉄鋼・金属       | 塗装                    | コロナ及びウクライナ情勢により外部環境は厳しい。しかし当社では「航空・宇宙・防衛」の分野を中心に活動しているが、現状は人工衛星向け特殊塗装が好調である。半導体不足により車輛生産減、不正による生産停止の影響あり。   |
|             | 工業団地                  | 好調な半導体関連企業は6月より新たな工場を立ち上げた。6月は機械の搬入と人員の配置を行い、7月から本格稼働に入る予定である。自動車メーカーの生産調整により受注激減となった下請けは残業がなくなったためコロナ禍以降10数名の退職者が出ている。売上の回復がはっきり見通せないため工場の縮小を検討している。   |
|             | 工業団地                  | 自動車産業については一部で好調傾向にあるが全体（自動車・トラック・バス）を見れば好調とは言えない。また、非正規を含めた人材の確保が一層困難になった。  |
|             | 金属製品                  | 部材の価格高騰と調達困難に対する対応が相変わらず多い。取引先の生産状況が不透明でキャンセル案件が発生することがあり対応に苦慮している。   |
| 輸送機器        | 船舶製造・修理               | 日本船舶輸出組合が発表した5月の一般鋼船の輸出船契約実績は、約117万総トンで3ヵ月連続で100万総トン以上となった。前年が高水準のため、前年同月比では約30%減となった。手持ち工事量は前月比51万総トン増の約2,100万総トンで増加の傾向が続いて居る。5月契約の内訳は20隻のうち15隻がバラ積船、コンテナ船が5隻。   |
| その他の製造業     | 工業中心の複合業種             | 6月後半になり少しずつ動きは出ているようではあるが横ばい状態。材料の高騰と3月注文の材料もまだ入荷しない等、材料不足も厳しい状況。また、人材不足もではじめ、好転の兆しは全く見えない。   |
|             | 工業中心の複合業種             | 半導体関連の動きが活発化されているが納品に時間がかかっている。コロナ禍の生活環境の変化により、受注変化への対応が求められる。原油、原材料の高騰が顕著であり、価格転嫁の遅れにより収益は悪化している。  |

情報連絡一覧票（令和4年6月分）

| 集計上の分類業種        | 具体的な業種<br>(産業分類細分類相当)   | 組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）   |
|-----------------|---|---|
| 非製造業<br><br>卸売業 | 菓子  | 売上は変わらず3割減が続いている。前月もそうだが、ガソリン価格の高騰による輸送費の上昇、人手不足、2月におきた米菓企業の工場火災の影響による売れ筋商品の欠品問題と厳しい経営環境が続いている。   |
|                 | 再生資源  | 金属スクラップは直近急落なれどこの半年を見れば良好な収益とみなす。   |
|                 | 卸団地   | 売上についてはようやく前年同月比で増加となったが新型コロナ禍以前（2年前）と比較した場合、依然減少している状況。（一部企業では2年前比増収）一方、菓ごもり需要による特需で増収の企業もあるが、取扱商品・販売ターゲットによって業績格差が顕著に表れている。アフターコロナによる世界的な需要増とロシアのウクライナ軍事侵攻等による原油高、半導体不足、小麦不足等によって、海外調達遅延、仕入価格上昇、物流経費増加によって、受注失墜し売上減少しているものもあり、又、前述の変動費増加による収益悪化が表れている。現時点では仕入価格の上昇を販売価格に中小企業に転嫁することが厳しい状況。（どの業種においても言える状況である） |
|                 | リサイクル   | 段ボール古紙は中国経済の低迷が予想以上に続いており、ドル価格は上値が重い状況となっている。しかし円安の進行と仕入競争の過熱により円価格は上昇を続けている。ロックダウン解除による需要回復の期待感及び梅雨時期の発注減を見込んで積極的な調達を行ったため市場の上昇を招いたが現在は台湾メーカー及び東南アジアメーカーともに静観している。新聞古紙は上昇が止まらない。すくなくとも秋口までは日本産の新聞古紙の引き合いが弱まることはなく、この相場が継続する可能性が高い。雑誌古紙はこれまで市況が安定していたがここにきて韓国メーカーが不足している新聞古紙の代替として高値をつけており、ドル価格及び円価格ともに急騰している。  |
|                 | リサイクル   | 古紙市況は市中回収低下が数ヶ月継続しており、問屋への入荷、在庫が低水準となっている。アジア向け輸出の引き合いが活発な中、輸出量は前年同月比で減少しているが堅調展開は継続しそうである。鉄スクラップ市況は、夏季の電力供給問題が見込まれるため、原材料の減産期での更なる需要低下がマイナス材料となり、弱気ムードが懸念される。アルミ市況は、半導体や自動車産業の減産が改善されない中、工場発生スクラップ減少が8月の連休まで影響するのではないかと懸念されている。  |
|                 | 料理材料卸   | 昨対売上は増加となっているが引き続き19年度比で80%～85%程度の売上が続く。食品の値上がりが頻発している中、売上数はより以上減少していると考ええる。これからも食品の値上がりが続くと考えるに19年度比で売り上げ85%～90%ぐらいはとりあえず確保しなければならない。  |
| 小売業             | 菓子  | 節句が過ぎ、急に悪化。暑さがきびしい。   |
|                 | 化粧品   | メーカーの我々に対するセミナーがウェブではなく対面での方式となってきている。また店頭での売上は相変わらず前年を下回った厳しい状況である。  |
|                 | 生花  | 原材料の値上がりで苦勞している。  |
|                 | 電化製品  | 各メーカーとも商品入高の状況が厳しい中猛暑の影響もありエアコンは好調。商品提供がスムーズになることを願うばかりである。夏物商品・白物家電はおしなべて好調である。  |
|                 | 書店  | 書店減少が止まらない中、町から書店が消えていくという記事が出ている。インターネット通販の拡大や電子書式（紙・インク代・配送費などの値上げにより出版社は紙の出版物から電子傾向）の普及で、リアル書店においてはコロナ禍以前には戻らない。あと一点政府が進めているキャッシュレスにより粗利が少ない業界で3～4%の手数料により経営が悪化している。   |
|                 | 青果  | ロシアのウクライナ進撃が治まる気配がないなか輸入柑橘類・輸入果実の品薄高値が進んでいる。それは作柄の影響ではなく海上輸送品の上昇や、円安のためであればは続きそうである。国内産の玉ねぎの高値は相変わらずで北海道産の出荷が待ち遠しい。   |
|                 | 青果  | 6月上旬は梅雨入りで天候は不安定であったが梅雨明けが早く下旬には猛暑となり各地で高温を記録しまさに異常気象であり野菜・果実共に相場は安定せず、荷揃え販売には苦戦した。輸入品は依然として入荷は少なく高値が続いている。総体的には例年に比べ特に根菜類、玉ねぎ、じゃがいも等は高値であったため、販売量前年比94%・販売高前年比104%であり、業務用納品関係ギフトも伸びず、収益状況は悪化し、小売店の経営はますます厳しさを増している。  |
|                 | 鮮魚  | 値上がり分がなかなか価格に転嫁できない。特に納入業務では受け入れてもらえない。相変わらず入荷量が少ない。  |
|                 | 燃料  | 6月は5月下旬から原油コストが大幅に上昇し、石油販売仕切価格も6月1ヶ月間でℓ当たり12円強上昇しており激変緩和措置が対象とならなければ末端SSの仕切価格はℓ当たり200円になる試算である。今後欧米の金融引き締めによる景気動向や物価等の大幅な上昇が大きな影響を受けるものと考えられ、指標原料の動向を注視する必要があるものと考ええる。したがって石油販売業界はしっかりとした採算販売をしなければ厳しい経営を強いられることになる。  |
|                 | 共同店舗  | コロナにより景況悪化改善は見られず。  |
| タイヤ販売           | 原油価格の高騰によりタイヤの値上げが4月から行われた。そのため需要が値上げ前に集中したため5月より売上は対前年より落ち込んでいる。脱コロナとしてアクティビティ増加で今後のタイヤ摩耗による需要増加を期待したい。またウクライナの戦争の影響で原油価格がさらに高騰し、再度の値上げをメーカーが検討しているようである。早ければ9月より値上げになるかもしれない。 |   |

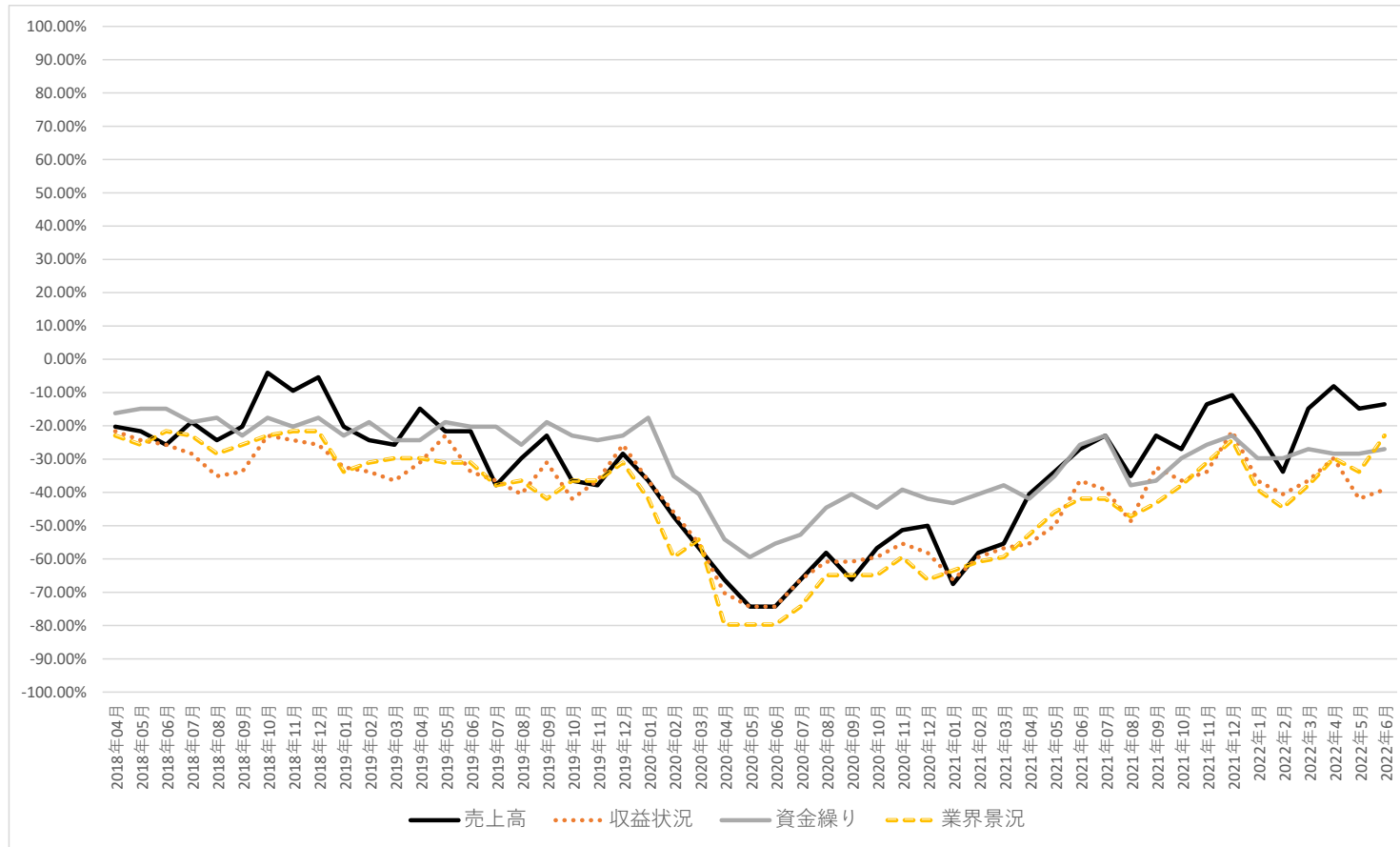
情報連絡一覧票（令和4年6月分）

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種<br>(産業分類細分類相当) | 組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）  |
|----------|-----------------------|--|
| 商店街      | 川崎市                   | 今月中旬までコロナ感染が減ってきていたが下旬にはオミクロンの変異株がまた少しづつ増えてきているようだ。ウクライナ問題や円安などで徐々に商品の値上げが増えてきている。消費者・販売者にとっても厳しい夏になりそうである。商店街発行のプレミアム商品券が順調に販売されてよかった。  |
|          | 横浜市                   | 材料の値上がりを価格に転嫁できていない。飲食業中心に売上は上昇している。   |
|          | 横須賀市                  | 6月期は新型コロナウイルス禍から回復の兆しが少し感じられたが後半は6日連続の猛暑により日中の来街者は微減した。また、長引く原材料高による物価の値上がりにより消費者の節約志向もこれからの懸念材料である。   |
|          | 藤沢市                   | 商圏内のショッピングセンターリニューアルオープンがあり生鮮加工食品部門ではマイナスの影響が出ている。衣料・化粧品・バイク・美容室などの業種は外出自粛制限が解け、徐々にではあるが回復基調にある。高齢層が多い商店街のため猛暑が続くこの夏の客足の鈍りが心配である。  |
| サービス業    | 温泉旅館・ホテル              | コロナ前までには回復していないが、団体客とインバウンドの予約も入るようになってきた。かながわ旅割の効果は個人客において5月より大きかったが予約の直近化が顕著にみられた。   |
|          | 医療業                   | 【薬剤】未だ医薬品の安定供給はできておらず、仕入に苦労している。薬剤価格交渉では、足元を見られ値上げ攻勢に迫られている。<br>【給食】本格的な食材の値上げは7月、10月からであり先行き不安である。電気料金は新電電との契約が打ち切られ130%増と通知されたが、それ以上になりそうである。<br>【コロナ関連】月末より陽性者数（陽性率）がじわじわ増加しているがベットの確保はできている。4回目の接種が打ち出されているが（対象、65歳以上、基礎疾患患者）予約の出足は悪い。   |
|          | 建物                    | 人材の確保が深刻、現場の高齢化が進んでいる。   |
|          | フィナンシャルプランナー          | 7月にかけて新規事業実施準備作業が忙しい時期になっている。今期の実績に影響するので組合員が企画立案に注力している。  |
|          | 情報サービス業               | 今年の昇給は物価上昇分をベースアップでどの程度反映できるかが悩みどころである。ほぼ順調であるが、下期が不透明である。前年同月と比較すると5G関連業務が増加傾向に転じ、それに伴い収益状況も好転している。ロシアのウクライナ侵略、為替相場の円高、物価高騰で日本経済が低迷し、中小IT企業への影響が懸念される。中堅の流動性が高まってきた。（転職市場が活性化か）   |
|          | 建設設計                  | 建設業界では建設資材価格の高騰が相変わらず続いている。資材の現場納入がぎりぎりとなり工期に支障が出ている現場が見受けられる。ウクライナ戦争が長期化すれば、ますます不透明となり、先を見通すことが困難となる。その他、小規模な改修計画は随時公表されている。  |
|          | 柔道整復師                 | 今回より3ヵ月遅れで神奈川県柔道整復師施術所における療養費請求総額の対前年同月比を知ることができるようになり、令和4年3月施術分の総費用額で対前年同月比90.4%になることが分かった。高齢になられた組合員のうち、ご自宅が開業されていらっしゃる方は国民年金基金などの年金をもらいながらゆっくり趣味程度に仕事を続けられている方も多くなってきたが、店舗を借りて従業員を使われている方は、かなり厳しい状況が続いており、新たに健康食品販売やインソールオーソティクス作成、その他保険外収入に力をいれてきたと推察される。  |
| 建設業      | 管工事                   | 民間の景況動向は上向いて、多少の好況感はある。しかし、先の見えない業界で必要とする原材料価格の高騰による製品の値上げは売上の悪化をもたらしている。公共工事も絡め何とか乗り切りたい。   |
|          | 空調設備工事                | 今だに県内の工事量は動きがなく少ない。改修工事や小規模工事などはあるが大型物件工事は少なく安価で受注していて利益などが少ない。材料費などの値上げで厳しい。今は先が見えない時になっている。  |
|          | 畳工事                   | コロナ感染者が緩やかに減少するなか外食や旅行に金が流れている。畳替えの方へ少しでも流れてくれれば。一般のお客さまは仕事の量が少ない。物価上昇も家計を圧迫。畳材料も高値で推移している。これからの暑さも仕事の減の要因である。かなり気候に左右される業種である。  |
|          | 建具                    | 仕入及び物流コストの影響により販売価格を上昇せざるを得ない。   |
| 運輸業      | 道路貨物                  | 鉄鋼などを主とする基礎産業資材及び機械製品など重量物の物流量が減っており重セミトレーラーなど大型車両の需要が減っている。車両を削減する事業者も多くなり、今後物量が戻った際に需要に車両が追いつかない状況となることが懸念される。働き方改革に合わせて労働時間の見直しを行っているが大型トレーラー等については輸送に際して制限（夜間通行時間の指定、NR装置による速度制限等）が多く、特殊車両通行許可等の制限の見直しが行われない中で労働時間を遵守するのは難しい状況が続いている。宅配貨物等の小口貨物は好調であるが貸切便の需要は全体的に2割ほど減ったままであり未だに回復の兆しが見られない。燃料やアドブルーの高騰も続いており、厳しい経営となっている。 |
|          | 道路貨物                  | 燃料価格の高止まりにより厳しい経営状況が続いている。   |
|          | タクシ                   | 新型コロナウイルス感染者数減少に伴い、人流が増え、利用者が増加し売上高が増加した。燃料費が高騰したが、実車率が上がった分収益状況に影響はない。  |
| その他の非製造業 | 歯科技工                  | 売上は増加したが歯科材料の値上げが響き収益状況は前年同月と変わらない。内閣府の経済財政諮問会議が開かれ「経済財政運営と改革の基本方針」の原案が示された。歯科については「国民皆歯科検診の具体的な検討」や「口腔健康管理の充実」「市場価格に左右されない歯科用材料の導入の推進」などが明記された。「国民皆歯科検診」が良くも悪くも注目を浴びている。その具体的な形を検討する前に義務化のイメージが選考して、SNSなどでは拒否反応を示す書き込みも目立つ。歯科の重要性をしっかりと伝え「健康寿命の延伸」という大儀を掲げて社会にアピールしなければならない。  |
|          | 不動産                   | 物価上昇を見据えているためか購入意欲の低下が顕著。地域的には割と売れ行きが好調だった今年始めに比べてここ数ヶ月売れ行きが一気に低下したため好調だった時期に仕入れた在庫が掃けず苦戦している業者が目立つ。   |

行政庁・中央会に対する要望事項

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種    | 行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等   |
|----------|-----------|--|
| 食料品      | ひもの       | 原油、天然ガス等エネルギーの確保と電気料金等の値上げ回避を図ってほしい。   |
| その他の製造業  | 工業中心の複合業種 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・好転しない業種（飲料製造加工業・レストラン・居酒屋等）への支援を手厚くし、倒産・廃業防止に努めてほしい。</li> <li>・海外出張、海外からの出張受入時対策（隔離・PCR検査証明等）の迅速化を講じてほしい。</li> <li>・原材料、石油価格高騰への対策を講じてほしい。</li> </ul>  |
| 卸売業      | 卸 団 地     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス対策支援ほか、仕入れ価格上昇に対する支援を引き続き、継続的に長期的かつ幅広く対応願いたい。</li> <li>・インボイス制度導入（国税庁）、電子帳簿保存法改正対応（国税庁）、道路交通法改正による全業種運転者のアルコールチェック義務化（警察庁）等行政による生産性の乏しい事業者管理業務のみを強化している感が否めない。それによる事業者コストをよく考え、必要以上の締め付けに対しては、緩和できる柔軟性を求めたい。</li> </ul> |
| その他の非製造業 | 不 動 産     | 居住用・事業用問わず家賃滞納が目立つ。家賃給付金の検討を支給求める。   |



























## 中小企業団体景況グラフ(全業種の主要項目)



本調査は、神奈川県中央会が委嘱した情報連絡員の役職員74名による調査結果です、調査対象は、情報連絡員は所属する組合の組合員「全業種」の景況（前年度同月比）です。

## 景況天気図(前年比)

(2022年6月)

|      | 売上高   | 在庫数量  | 販売価格  | 取引条件  | 収益状況  | 資金繰り   | 設備操業度   | 雇用人員  | 業界の景況   |
|------|---|---|---|---|---|--|---|---|---|
| 全体   | -13.5 %   | -4.3 %  | 29.7 %  | -13.5 %   | -39.2 %   | -27.0 %  | -14.3 %   | -16.2 %   | -23.0 %   |
|      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 製造業  | -19.0 %   | -4.8 %  | 33.3 %  | -9.5 %  | -57.1 %   | -28.6 %  | -14.3 %   | -4.8 %  | -28.6 %   |
|      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 非製造業 | -11.3 %   | -4.0 %  | 28.3 %  | -15.1 %   | -32.1 %   | -26.4 %  | %   | -20.8 %   | -20.8 %   |
|      |  |  |  |  |  |  | -   |  |  |

(回答率 100.0%)

天気図の見方・・・各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を引いた値（KJI）をもとに作成。その基準は次の通りである。ただし、在庫数量はKJI値プラスの時には雨、マイナスの場合には晴れの方に著した。KJIとは、「神奈川県情報連絡印調査指数」の略である。

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 快晴  | 晴れ  | くもり   | 雨   | 雪   |
|  |  |  |  |  |
| 30以上  | 10～30未満   | 10未満～△10  | △10未満～△30未満   | △30以上   |

神奈川県中小企業団体中央会

# 5月の中小企業月次景況調査

〔令和4年5月末現在〕


 全国中小企業団体中央会  
 National Federation of Small Business Associations

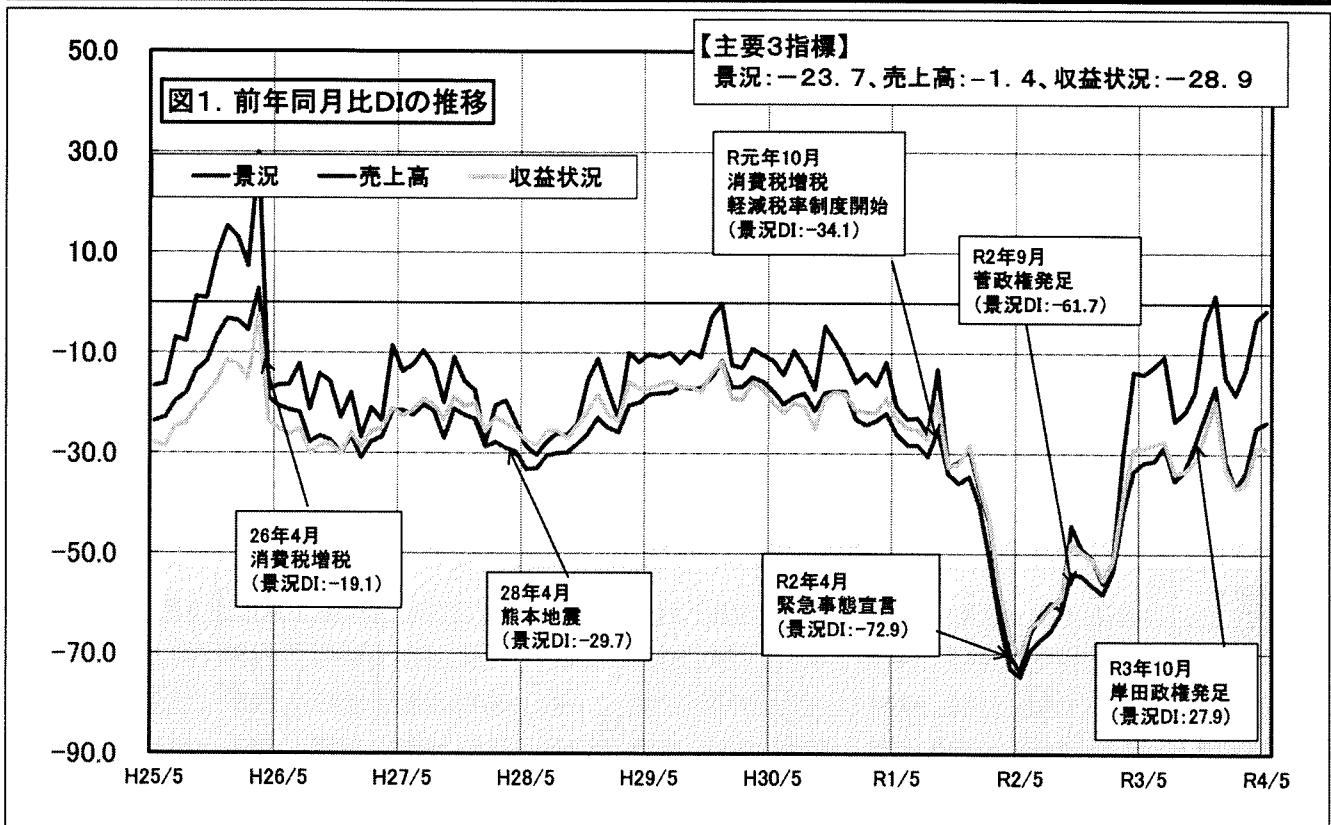
令和4年6月27日発表

◎5月のDIは改善基調にあるも先行き不安感拭えず。

○3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークを迎え、外食・宿泊関連のサービス業や卸売業、食料品等の製造業を中心に、景況感は前月に比較しやや改善した。

○一方、引き続き原油・原材料の高騰や部品の調達難に加え、電力料金等の高騰、円安による輸入物価の上昇の影響に加え、新型コロナウイルス収束の先行き不透明感も残っている。

○相次ぐ原材料価格の高騰に対し、製造業を中心に価格転嫁の交渉が十分に進まないことも重しになり、先行きの景況に対し懸念を示す声が引き続き多く寄せられた。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役職員約2,600名に委嘱〕による調査結果です。  
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況(前年同月比)です。

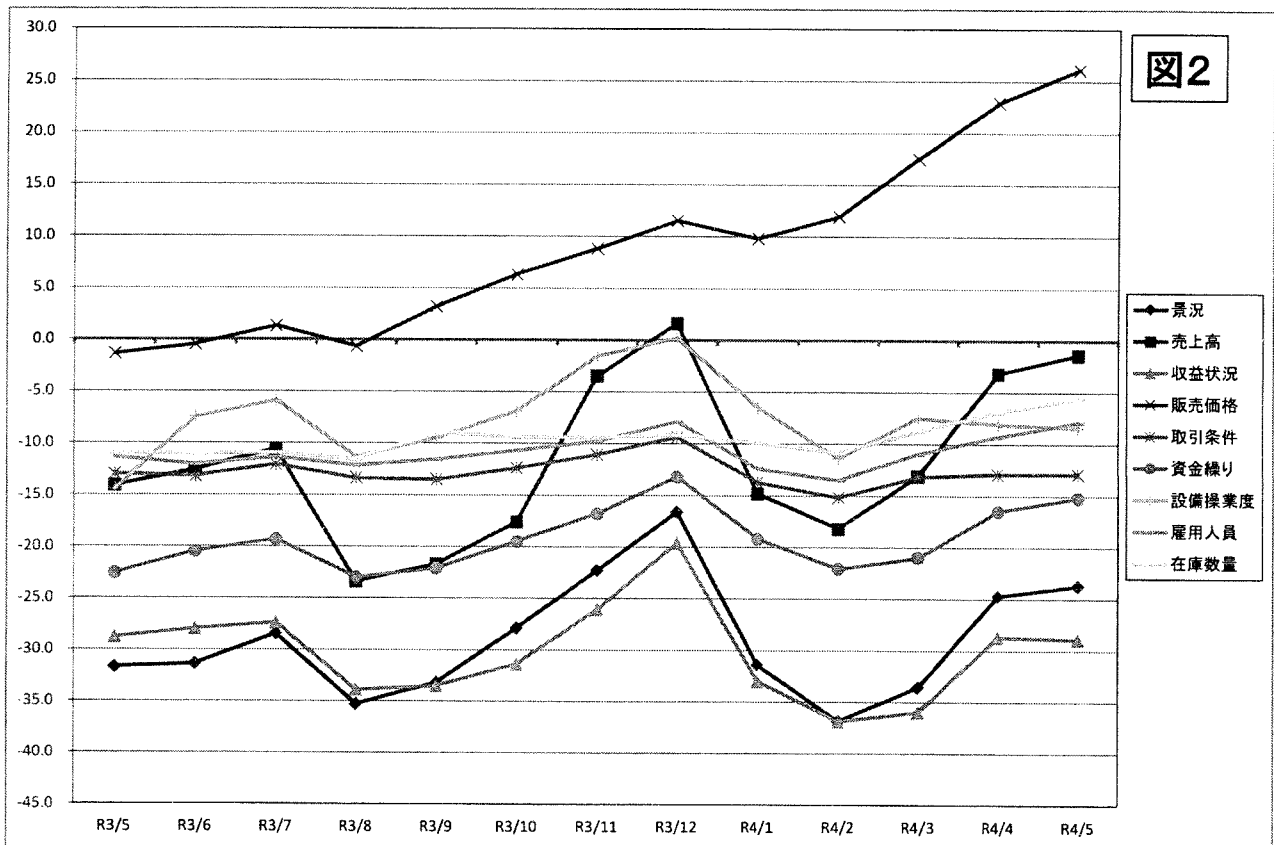
(本発表資料のお問い合わせ先)  
 全国中小企業団体中央会  
 担当：政策推進部  
 TEL 03-3523-4902  
<https://www.chuokai.or.jp>

## 5月の調査結果のD I 概況

### 【指標D Iの動向とポイント】

1. 5月のD Iは、多くの指標で前月比プラスとなった。主要3指標は、景況が1.0ポイント改善、売上高が1.8ポイント改善、収益状況が0.2ポイント低下した。
2. 主要3指標以外では、販売価格のD Iが3.2ポイント改善した。
3. 3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークを迎えたことで、各地の商店街や卸売業、サービス業を中心に景況感が改善した。

### 全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）



| 表1    | R3    |       |       |       |       | R4    |       |       |       |       | 前月比   |       |       |      |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|       | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    |       | 3月    | 4月    | 5月   |
| 景況    | -31.7 | -31.4 | -28.5 | -35.3 | -33.2 | -27.9 | -22.3 | -16.6 | -31.4 | -36.9 | -33.6 | -24.7 | -23.7 | 1.0  |
| 売上高   | -14.1 | -12.6 | -10.6 | -23.4 | -21.7 | -17.6 | -3.5  | 1.6   | -14.8 | -18.2 | -13.1 | -3.2  | -1.4  | 1.8  |
| 収益状況  | -28.8 | -28.0 | -27.4 | -33.9 | -33.5 | -31.4 | -26.1 | -19.6 | -33.0 | -36.9 | -36.0 | -28.7 | -28.9 | -0.2 |
| 販売価格  | -1.4  | -0.5  | 1.3   | -0.7  | 3.2   | 6.3   | 8.8   | 11.5  | 9.8   | 11.9  | 17.5  | 22.9  | 26.1  | 3.2  |
| 取引条件  | -13.0 | -13.2 | -12.1 | -13.4 | -13.5 | -12.4 | -11.1 | -9.4  | -13.7 | -15.2 | -13.2 | -12.9 | -12.9 | 0.0  |
| 資金繰り  | -22.6 | -20.5 | -19.3 | -23.0 | -22.1 | -19.5 | -16.8 | -13.2 | -19.2 | -22.1 | -21.0 | -16.5 | -15.2 | 1.3  |
| 設備操業度 | -14.5 | -7.5  | -5.9  | -11.4 | -9.5  | -6.9  | -1.6  | 0.2   | -6.5  | -11.4 | -7.5  | -8.1  | -8.4  | -0.3 |
| 雇用人員  | -11.4 | -12.1 | -11.4 | -12.2 | -11.6 | -10.7 | -9.8  | -7.9  | -12.4 | -13.5 | -11.0 | -9.3  | -7.9  | 1.4  |
| 在庫数量  | -11.0 | -11.1 | -11.0 | -11.6 | -9.0  | -9.4  | -9.4  | -9.2  | -9.9  | -10.9 | -8.8  | -6.9  | -5.6  | 1.3  |

## **【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】**

1. 価格転嫁に向けた交渉は各業界で行われている一方、原材料価格等の高騰に対し、交渉のタイミングが難しいというコメントが散見された。
2. 建設業や製造業における外国人労働者等の人手不足、コロナ禍や後継者不在による廃業等に関する報告も引き続き数多く報告されている。
3. コロナ禍を契機としたニューノーマルに向けた取組みやインボイス制度に関する事業者の声も寄せられている。

### 《主な報告内容》

#### ◇販売価格への転嫁に関する事業者の声

- ・徐々に価格転嫁は進んでいるものの、流通については、この秋になるところもある。しかし、6月20日には再度の値上げが大幅にあり、次の値上げも視野に入れての営業活動や値上げ実行が課題である。(宮城県/製麺業)
- ・3割程度の値上げ交渉を続けている。労務費、エネルギーコストの上昇分を認めてくれる取引先は極僅かしかない。(東京都/印刷業)
- ・国の下請け法によるメーカーへの指導もあり、原材料上昇分の値上げは、以前よりかなりスムーズになってきている。(福岡県/鉄素形材製造業)

#### ◇長引くコロナ禍による経営への影響等

- ・外国人技能実習生の受入再開に伴い、特定活動の期間更新を認めない制度方針となった。そのため、帰国する技能実習生が一時的に増えことから、工場の生産力が低下が懸念される。(秋田県/繊維業)
- ・仕事量が多いものの建材の高騰分を価格転嫁できず、請負価格が上がらないため厳しい経営状況が続いている。また、職人の不足・高齢化が進み、事業承継の問題から廃業を決めた組合員がいる。(山梨県/工事業)

#### ◇コロナ禍を契機としたニューノーマル・業態変換（事業再構築）等の取組み

- ・軽運送業者の組合員の中にはフードデリバリーにシフトしている人がいる。フリーの軽運送業者の割合が高いのが現状であるが、今後の見方として特に縛りのないフリーに組合を脱退しハコベル、ピックアップなどのシェアリング・プラットフォームを主にする事業形態が増えることを危惧している。(北海道/運送業)
- ・専門店の「利便性」である肌に合う化粧品の選択、ライフスタイルに合わせての提案等、Withコロナの店舗作りをしている。化粧品専門店で購入している消費者にとっての利便性は何かをしっかり把握することが重要であり、コロナ後はいろいろな要素を考慮しないといけないと感じている。(山口県/化粧品小売業)

#### ◇インボイス対応に関する事業者の声

- ・インボイス制度や改正電子帳簿保存法等対応の初動が遅れている。しかし、帳簿の保存について、土木業界では公共工事を請け負うため、データで保管することは習慣付いているので大きな心配はしていない。(福井県/建設業)
- ・当組合でも、インボイス制度の登録を済ませた。組合員は、登録済み、今後登録予定等、様々である。建設業において懸念される問題として、下請事業者が免税事業者である場合、元請事業者が消費税を控除できなくなる為、「適格請求書等発行事業者になることを選択させ、さもないと取引をしない」といった対応をとる事業者も危惧される。特に一人親方などは大きな転換期といえる。(香川県/建設業)